

2020年度 マンスリーレポート No. 70

1月4日、卒業試験の再試験が行われ(38人が受験)、安達が監督を担当した。登校禁止による白衣授与式の中止について、学生が行ったアンケート結果(105人が回答)を添えて教務課に意見書(感染防止に留意した白衣授与式)を提出した。福岡県のCOVID-19感染者数の増加傾向に伴い、理事長/学長が教職員に各自が感染しているかもしれないという意識を持つように「感染拡大防止のための取組みの更なる徹底」を通知した。東京/神奈川/千葉/埼玉の知事の要請を受け、政府が緊急事態宣言の検討に入った。

1月5日、教務委員会で卒業試験(再試)の結果が審議され、38人中31人を合格とする案に決まった。COVID-19による医療体制の逼迫を受け、厚労省が看護系大学280校に対して看護師免許を持つ大学院生や教員を医療現場に派遣するように要請した。

1月7日、教授会議で卒業判定が審議され、教務委員会案が異論なく決定した(112人が卒業、7人が留年)。政府が1都3県に緊急事態宣言を発出した(1/8~2/7、飲食店時短の要請や夜間外出の自粛が求められた(休校要請は行わず、試験は予定どおり実施)。

1月8日、トレセン会議が開催され、センター使用の取扱いと使用料金が審議された。

1月12日、行動科学部会が開催され、来年度の行動科学Ⅰは地域医療学、行動科学Ⅱは医学概論/専門職連携、行動科学Ⅲは臨床倫理学、行動科学Ⅳは健康行動理論/行動経済学にて化して行い、再来年度は新しい科目名で責任者を変更する方針が確認された。

1月13日、政府の緊急事態宣言が福岡県にも発出された。

1月14日、行動科学Ⅱの本試験が行われ、教育センターで監督と採点を行った。感染症医療人材養成事業(文科省所管の令和2年度補正予算)について、教務委員長・教務課長と教育Cスタッフでミーティングを行った。

1月15日、福岡県の緊急事態宣言に応じて、登校再開(1/18~)・感染対策・健康管理に関する注意事項が学生に通知された(病院の災害レベル引き上げは保留となった)。

1月18日、来年度の行動科学Ⅲ(臨床倫理学)について、安達が伊佐智子さん(非常勤)と面談した。山田がRMCP部会でアンケート結果を報告した。トレセンに腹腔鏡手術トレーナーが設置され、片山が対応した。

1月21日、来年度の行動科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲの授業計画が決定し、20講座/部署の授業担当者34人に68コマの日時や内容(テーマ)の一覧表を送付した。

1月22日、感染症医療人材養成事業(文科省)の応募計画書(教育内容と設備整備計画)を教育センターで作成して教務委員長に提出した。高等教育コンソーシアム久留米(5大学の連携)から協力依頼があり、教育センターのサーバー提供に応じた。来年度の時間割も現在の時間割(第1/2学年と第3/4学年で50分の時間差)を継続することが通知された。

1月23日(土)、山田が第78回e医学教育セミナーとワークショップで「eWS-3 臨地実習において教育上の調整が必要な学生の支援を考えよう」と「eWS-4 あなたはなぜ教育するのか? あなたの教育哲学を考える」に参加した。鈴木康之氏(岐阜大学MEDC)のSpecial Webinar「小児科から医学教育へ」を安達が拝聴した。

1月24日(日)、山田が慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業(厚生労働省)のオンライン研修会(定員50名)「慢性疼痛診療研修会 in 九州」で「痛みの治療を知ろう! 手術療法を知ろう!」を講演した。

1月25日、安達が『臨床透析』特集号「透析患者の消化管疾患A to Z」の「イレウス」(依頼原稿)を執筆送付した。柏木が元気プロジェクト(守屋助教)共同研究(webアプリ)で久留米高専の学生をオンラインで指導した。山田が損害保険料率算出機構のリモート会議

(テスト)にオンラインで参加した。

1月29日、恒例の国家試験激励会が中止になり、昨年から始めた卒業時アンケートは、国家試験用資料に加えて教務課で配布と回収を行った(集計は教育センターで行う)。

*クリニカルスキル・トレーニングセンターで開催されたイベントは次のとおり。

1月7日、CVカテ挿入トレーニング(救命医師)

1月8日、クリニカルスキル・トレーニングセンター会議(谷脇センター長)

1月12日、患者急変時対応勉強会(病棟看護師)

1月22日、患者急変時対応勉強会(病棟看護師)

1月29日、多重課題研修(病棟看護師)

文責：安達洋祐